

第31回大会

中国・四国・九州地区

# 生涯教育実践研究交流会



- 期 日 平成24年5月19日(土)～20日(日)
- 会 場 福岡県立社会教育総合センター
- 主 催 福岡県教育委員会  
日本生涯教育学会九州支部
- 主 管 中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会  
第31回大会実行委員会  
福岡県立社会教育総合センター

## 第31回大会からは『生涯教育実践研究交流会』です

昭和57年に始まった本大会も今年で31年目を迎えます。

昨年は30回という大きな節目の年でした。大会コンセプトに「未来の必要」を掲げ、記念誌も発刊しました。そのキーワードは「学習から教育へ」でした。

社会構造の急激な変化はこれからもさらに進み、生涯学習社会は成熟していくはずです。

生涯学習は人々の生活の場で大いに進められてきました。しかし、「まちの活性化」や「市民の豊かさや生きがいづくり」は進んだのでしょうか。生涯学習社会は「選択社会」です。選択社会は学習するかしないかは個人の自由です。当然選択する人とならない人が出てきます。このようにして「格差社会」が生まれました。生涯学習格差は健康格差、交流格差、情報格差に連鎖し、地域格差も助長しています。

その一方で社会教育本来の役割であった地域での「人づくり」や「地域活性化」への取組がおろそかになり、社会教育の施策や活動も見えにくくなってきています。私たちは生涯学習を追い求めるだけで良かったのでしょうか。

これからも生涯学習の推進は必要です。その中で「生涯教育・社会教育の視点の必要性」を強調したのが第30回大会であり、今後へつないだ宿題でありました。

今、国では「新しい公共」という名の下に、民間の力を行政のあらゆる分野に活かしていく施策が実践に移されています。地域では新しい「まちづくり」が始まっています。これらの施策には生涯教育、社会教育の視点が不可欠です。

第31回大会からは、大会名称も「生涯学習実践」を「生涯教育実践」に変えました。第30回大会のコンセプト「未来の必要」～学習から教育へ～を引き継ぎ、第31回大会が実り多き大会になることを期待しています。

代表世話人 森本 精造

## 中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会 第31回大会 実行委員

- |                                |                           |
|--------------------------------|---------------------------|
| 森本 精造●NPO法人幼老共生まちづくり支援協会       | 三角 幸三●宇城市教育委員会            |
| 山本 稔●鳥取県教育委員会事務局家庭・地域教育課       | 中川 忠宣●大分大学                |
| 神門 三郎●松江市立八雲小学校                | 植村 健治●大分県教育庁社会教育課         |
| 渋谷 秀文●島根県益田教育事務所               | 池本 要●NPO法人 家庭・青少年教育ネットワーク |
| 吉岡 康行●広島県教育委員会生涯学習課            | 竹内 一久●高千穂町立高千穂小学校         |
| 正留 律雄●大野子ども体験活動・ボランティア活動支援センター | 山下亜紀子●宮崎大学                |
| 福原 洋子●岡山県教育庁                   | 鹿倉 貢●鹿児島県立青少年研修センター       |
| 赤田 博夫●宇部市立鶴ノ島小学校               | 今和泉俊幸●かごしま県民大学中央センター      |
| 高木 義夫●NPO高知県生涯学習支援センター         | 鶴木 孝夫●霧島市立向花小学校           |
| 和田 瑞穂●愛媛県松山市立河野小学校             | 井上 講四●琉球大学                |
| 関 弘紹●佐賀県文化・スポーツ部まなび課           | 大城喜江子●NPO法人 なはまちづくりネット    |
| 林口 彰●(財) 孔子の里                  | 中藺 宏●福岡県教育庁教育企画部社会教育課     |
| 紫園 来未●オフィス しおん                 | 大島 まな●九州女子大学              |
| 鴻上 哲也●佐賀県教育庁学校教育課              | 今田 義雄●福岡県立社会教育総合センター      |
| 馬場 利浩●長崎県教育庁生涯学習課              | 古市 勝也●九州共立大学              |
| 武次 寛●長崎市香焼公民館                  | 正平 辰男●純真短期大学              |
| 池田 幸春●熊本県教育庁教育総務局社会教育課         | 三浦清一郎●生涯学習通信「風の便り」編集長     |

# Time Schedule **1st day 5.19 Sat.**

9:30	10:15	10:45	12:30	13:00
受付	開会式	実践発表.1		受付
玄関ロビー	講堂	第1会場:2F 第4研修室 第2会場:2F 自由研修室 第3会場:4F 視聴覚室 第4会場:4F 大研修室		昼食 玄関ロビー

13:30	16:15	16:30	17:00	17:30	20:00
実践発表.2		特別報告	懇親会		
第1会場:2F 第4研修室 第2会場:2F 自由研修室 第3会場:4F 視聴覚室 第4会場:4F 大研修室		移動 「人は2度死ぬ-自分史は『紙の墓標』」 報告者 三浦 清一郎 フリータイム	全体講堂		県別2F食堂



■日時：1日目の夜 17:30～ ■場所：講堂

「実践研究交流会は、実践事例の発表がメインなのか、懇親会がメインなのか？」と問われるくらい、毎年、毎年大盛況の懇親会です。ちょっと緊張気味だった参加者の皆さんが、料理をほおぼり、地酒を酌み交わして、「お国自慢」をし、「村おこし」の苦勞を話し合い、「人づくり」の楽しみを語り合います。その熱気に、人々の顔は真っ赤、会場は熱気ムンムン！今年も、全館貸し切りです。どうぞ心おきなく、お楽しみ下さい。

なお、せり市の売り上げは次年度の運営費の一部とさせていただきますので、ご了承下さい。

# Time Schedule **2nd day 5.20 Sun.**

8:30	9:00	11:30	12:00
受付	特別企画 インタビュー・ダイアローグ 1部「通学合宿等『生活体験プログラム』の意義と方法」 2部「壊れた地域社会を修復し、『無縁社会』を突破する方法はあるか？」	総括閉会式	昼食
玄関ロビー	講堂	講堂	



■日時：5月19日・20日 ■場所：1F交流ロビー

大会開催中、参加者の皆さんが携わられている「まちづくり」や「人づくり」のイベントのポスターを掲示しています。どうぞ、ご覧下さい。



# 第1会場 ● 2F 第4研修室

■司 会／田中 時子 山口県地域支援ネット「かぜ」 事務局長  
眞鍋 幸一 愛媛県県民環境部管理局 県民活動推進課 課長

分科会の進め方 10:45~10:50

1 県民が「学び・つながり・動き出す」 10:50~11:20  
～くまもと県民カレッジの仕組み～

太田黒保宏(熊本県) 熊本県生涯学習推進センター 社会教育主事

学習システムは「主催講座」、「連携講座」、「リレー講座」の3つを組み合わせて構想している。キャンパスは県全域と想定し、県施設パレア(熊本市)に加えて、サテライト教室を通して県下約半数の市町村で出前講座を実施してきた。

プログラムは大学と連携した企画部会で検討した後、関係機関で構成する運営委員会で審議して決定する。また、スムーズな運営を支える県民カレッジ卒業生等のボランティアも見逃せない。カレッジは単位制を採用して、学習への参加を奨励して来たが、平成24年には主催講座の受講者が1万人を突破する見通しである。

2 子育て・親育ち「タムタムスクール」の協働実践 11:25~11:55  
～市民と行政による乳幼児期の家庭教育支援～

ト蔵 久子(鳥取県米子市) タムタムスクール実行委員会 会長

孤立しがちな子育て世代に「子育て」と「親育ち」の二つの機会と場を同時に提供しようとする米子市教育委員会の発想により広い視点を取り入れるため、子育て支援に係る活動をしている市民も交えて実行委員会を組織している。本スクールの講座は食育、しつけ、メディア環境、あそび、自然体験など年間10回を基本とし、広く人々に浸透させるべく、コンサートのような特別講座を組み合わせている。参加者の声を聞けば、成果は多岐に渡って上々であるが、子育て支援事業のジレンマは、男性を始めとして参加してもらいたい人々に届いているかということであり、民生児童委員等と連携したきめ細かい情報提供と支援が今後の課題である。

3 地域を変える・暮らしを変える 12:00~12:30  
～非地元系NPOによる中山間地コミュニティ再生に向けた実践～

齋藤かおり(福岡県八女市) 特定非営利活動法人グラウンドワーク福岡 事務局次長

「非地元系」とは、当NPOは福岡市に所在し、活動場所に八女市を選択しているという意味である。それゆえ、活動を通して地元との信頼関係を築くことが最も重要であるが、この5年間で、古民家再生プロジェクト、遊休農地を活用した芋焼酎プロジェクト、英国の成功事例に倣った「タイムバンキング」、子どもを巻き込んだ景観まちづくりワークショップなどをはじめとし、30本以上の企画を集中的に実施してきた。

試行錯誤の連続であったが、古民家の再生、芋焼酎の製品化など、目に見える成果が生まれ、さらにはNPOが起こしたアクションを契機に地元主体のプロジェクトが動き出したことが最大の成果である。



# 第2会場 ● 2F 自由研修室

■司 会 / 上野 敦子 山口県山口市あじす学童保育事業所 主任指導員  
毛利 克裕 福岡県教育庁京築教育事務所 社会教育室 主任社会教育主事

分科会の進め方 10:45~10:50

1 宇宙のまちの「宇宙少年団」活動プログラムによる青少年育成 10:50~11:20

小西 嘉秋(鹿児島県南種子町) 日本宇宙少年団南種子町宇宙科学分団 副分団長  
南種子町教育委員会 社会教育課長

分団の日本宇宙少年団への登録は1986年である。現状組織は、小学4年生以上高校生までの65名と指導者11名の構成である。分団の活動目標は「科学する心」、「友情の輪」、「郷土愛」の育成に置き、活動拠点に種子島宇宙センター、南種子町自然の家などを活用し、プログラムは宇宙科学、考古学、郷土の文化財などの学習に加えて、歴史年表の作成、発掘遺跡の出土品をモデルとした製作実習、サマーキャンプなど多岐に渡っている。27年に亘る活動の継続によってJAXAや町教委との連携も確立し、子ども達の役割分担が明確化し、高校生リーダーも育ち、宇宙留学生(山村留学)の参加も見られるようになった。

2 Let's Study, Let's Enjoy in 船上 11:25~11:55  
~小中学生を対象とした勉強合宿&野外体験企画を大学生と自然の家が共催実施~

岩成 智彦(鳥取県琴浦町) 船上山少年自然の家 指導係長

当施設では、地元の大学生を対象に、企画力・実践力の向上に向け、主催事業において学生をさまざまなポジションに位置づけてきた。今回の事業は、こうした取り組みの中で島根大学の学生が発案し、絶対実現させたい熱意とそれを受け入れた自然の家との関係の中から生まれた特別プログラムである。内容は、自然体験活動を中心に据えた既存のプログラムではなく、あくまで学力向上の学習プログラム中心であり、その合間に体験活動プログラムをリラックスタイムとして取り入れ、メリハリをつけるという当野外教育施設としては新たな取り組みである。今年度は主催が島根大学であったが、参加者及び保護者から是非継続して欲しいという声を受け、自然の家の主催事業として更なる充実を図る。

3 1週間通しの学社融合「人権」啓発プログラム 12:00~12:30  
~「熊本市ふれあい文化センター」が企画する「かけはしウイーク」の集中と選択~

石川 貴博(熊本県熊本市) 熊本市教育委員会 人権教育指導室 指導主事

「かけはし」は「自分」と「他人」、「子ども」と「大人」、「個人」と「社会」、「学校」と「社会教育」、「思想」と「行動」を繋ぐなどさまざまな解釈が可能である。「かけはしウイーク」はセンターが開設した人権啓発プログラムの集中と選択である。人権週間の1週間を通して学校と社会教育の内容・方法を融合させ、各種プログラムの形態を融合させ、児童生徒と地域住民・講座生の交流を同じ学びの場で進めようとした試みである。具体的には、市民対象の啓発講演を柱として、それに中学生・市民を対象としたギタリストの公演、園児・児童・生徒が作成した標語等作品の展示、小学生を対象としたおはなし会、小中学生を対象とした「絵手紙メッセージ」の作成実習、小学生を対象とした音楽療法の紹介などを組み合わせ多様な取り組みを1週間に凝縮した「かけはし」プログラムである。



# 第3会場 ● 4F 視聴覚室

■司 会／井上 雅晴 熊本県教育庁教育総務局 社会教育課 社会教育主事  
一ノ瀬輝陽 佐賀県立生涯学習センター 企画員

分科会の進め方 10:45~10:50

1 地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会5年の歩みと思想 10:50~11:20

矢野 修(大分県国東市) 地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会運営委員会 委員  
大分県立社会教育総合センター 社会教育主事

大分県教委と「東国東地域デザイン会議」の「協働」発想によって始まった事業である。平成の大合併以降、公的社会的教育の衰退傾向の中で、地域づくりは「官から民へ」の時代に入ったと認識し、民のエネルギーや発想を開発し、発表と交流の場を設定してネットワークを築き、標記の通り、参加者が活力を醸成し、地域に持ち帰り、次世代に引き継ぐ地域づくりを発展・継承し、子どもや高齢者はもとより地域産業の振興による安心なまちづくりを目指している。自らの工夫と企画を「デザイン」と表現し、意識的に新しい発想、地域の個性、グループやサークルの独自性を重視し、如何にデザインを実践に移行させるかを会の主要目的としている。孤高の哲学者三浦梅園を記念する「梅園の里」を拠点として、NPO法人大分県「協育」アドバイザーネットやNPO法人幼老共生まちづくり支援協会等の応援も得て、1泊2日の実践交流会を開催し、5年目（第5回）の大会を終えたところである。

2 アウトリーチ型家庭教育・子育て支援相談事業 11:25~11:55

松林 廣美(長崎県長崎市) 橘・戸石地区民生委員児童委員協議会 民生委員・主任児童委員

平成21年度以来、長崎県子ども未来課の委託を受け、10人で構成する相談員グループが小学校区内の子育て応援隊として訪問型の相談事業を展開している。個別家庭への訪問に加えて、主たる活動場所は保育園、放課後児童クラブ、地域のお遊び教室などで、1年を通して随時要請に対応し、月1回程度の定例会で連絡・調整を図っている。予算は国の「安心子ども基金」を活用し、学校や地域の協力を得て広報誌上で活動の周知を図り、併せて個別にチラシも配付している。関係者のネットワークが徐々に形成され、地域における本事業の認知度も高まっている。プライバシーの徹底保護、専門相談機関との連携、他地域への活動の普及などが次なる課題である。

3 伝統的豆腐づくり「あたいぐわープロジェクト」が生み出す  
コミュニティの活力と学校支援活動の活性化 12:00~12:30

南 信乃介(沖縄県那覇市) 那覇市立繁多川公民館 リーダー

「あたいぐわープロジェクト」は地域歴史の「聞き取り」講座から生まれ、「家庭菜園(あたいぐわ)」での大豆生産を復活し、地域に伝わる伝統的豆腐づくりを中核としたまちづくりの手法である。評判の高い在来大豆「青ヒグ」を農事試験場から分けてもらい、地域住民が「あたいぐわ」を再生して、種まきから豆腐づくりまでを手がける中で、近隣小・中・高校との連携も始まった。小学校の総合的学習への参入も実現し、公民館の「すぐりむん認定」(すぐれた人材発掘)を活用して学校支援事業が活性化した。住民自身が行なう「菜園」管理の手法は、人々の主体性を育み、地域文化を共有する中で自治会主催の地域イベントも実現し、コミュニティの絆と誇りを創り出していった。当プロジェクトについては平成23年以来実行委員会方式を導入し、学校との連携は公民館がコーディネーター機能を仲介している。



# 第4会場 ● 4F 大研修室

■司 会 / 吉岡 康行 広島県教育委員会 生涯学習課 主任社会教育主事  
安達 浩文 福岡県教育庁南筑後教育事務所 社会教育室 主任社会教育主事

分科会の進め方 10:45~10:50

1 家庭教育リーダーの養成と修了生グループ「さんかく」の活動支援 10:50~11:20

三角 幸三(熊本県熊本市) NPO法人チェンジライフ熊本 理事

家庭教育リーダー養成事業は熊本市の委託であるが、事業終了後、研修生の活躍の場が保障されておらず、サポートも不十分であった。当法人は、研修の成果は「社会参画」と意識し、「2時間×11回」の長期参加型講座を実施し、21名が修了した。研修成果を具体的に社会還元できるよう、研修方法においては、「ファシリテーター機能」の習得を重視し、研修後の活動の場については、人材バンクに登録したり、講師陣の補助を務めたり、プログラムの企画に参加する機会を提供するなど支援を継続した。将来的に、事業の受託が継続できれば活動の場が保障できるので、法人としては他の委託事業にも挑戦し、併せて研修を終了した子育て支援グループの存在を広く広報していく事が課題である。

2 「たくミュージカルカンパニー」の創造機能  
～手づくりミュージカルが生み出す新たなコミュニティ集団の成果と意義～ 11:25~11:55

川内丸信吾(佐賀県多久市) (財)孔子の里たく市民大学ゆい工房 座長

自己表現力、コミュニケーション能力を有する新たな地域集団を育成する方法として市民自らが創造するミュージカル劇を選択し、総勢100名が歌やダンスや演技はもとより、ミュージカル誕生に至る全ての領域の企画-制作-運営-公演の各プロセスに関わって来た。オーディションは行うが基本的に全ての希望者を受入れ、市民集団が相互に協力し、知恵を出し合って新しい事業をつくりあげていく過程は極めて協働的であり、教育的であり、連帯感を醸成する。ミュージカル創作の成果は、参加者の参画意識、出演者の姿勢、保護者の自主性、市民の関心の向上など多方面で顕著に現れている。ミュージカル公演は、多久市中央公民館、佐賀市民会館、佐賀市文化会館などで披露し、社会的評価にも挑戦している。

3 「生石子どもいきいき教室」が生み出した地域協働のシステム  
～地域は子育て応援隊～ 12:00~12:30

角田 敏郎(愛媛県松山市) <sup>しょうせき</sup>生石子どもいきいき教室実行委員会 会長  
松山市生石公民館 館長

平成19年「放課後子ども教室」の受託が本格活動の開始である。平成22年度の年間活動日数は214日、協力ボランティア数は延べ713名である。活動には学校と公民館を併用し、プログラムは各種「日替わり」のメニューを提供している。特徴の1つは愛媛大学教職課程に在籍する学生の「地域実践プログラム」の舞台として位置づけていることである。活動の積み重ねが子どもを変え、関係者の意識を変え、地域の子育て「応援隊」の機運を醸成しているが、協力者の中核は高齢者であり、その輪はかならずしも広がってはいない。また、特別な支援を要する子どもも増え、学校との関係は極めて重要であるが、連携が進展するか否かは「校長の経営感覚次第」という状況は変わらない。



# 第1会場●2F 第4研修室

■司 会／椋本 博志 長崎県教育庁生涯学習課 社会教育推進班 指導主事  
宮原 孝子 佐賀県文化・スポーツ部 まなび課 主査

分科会の進め方 13:30~13:35

1 「おのみち100km徒歩の旅」  
～意義と役割とサポートシステムの再検証～ 13:35~14:05

柿本 和彦 (広島県尾道市) NPOおのみち寺子屋 理事長  
岩永 奈々ほか(広島県尾道市) NPOおのみち寺子屋 会員

平成15年(社)尾道青年会議所が創始した小学生を対象とした5日間の超ハードな体験プログラム。その後実行委員会形式を取り入れて現在に至る。主たる目的は子どもの自己鍛錬と集団における人間関係の構築である。本事業の成否は支援するボランティアおよびそのリーダーの気力、意欲、知識、体験にかかっており、彼らの養成研修の視点と方法が最も重要である。リーダー養成は計12回、フォローアップ研修は計4回、ボランティア研修生の養成研修は計5回などを積み上げていくが、年間を通して「プレリーダー研修」(計5回)「おの100 支援塾」(計3回)などを実施している。学生ボランティアの「社会人基礎力」の向上、子ども達の耐性・協調性の向上など成果は著しい。企業協賛金、参加費、研修登録料などを含め、総事業費は350万円程度である。

2 第1回「協育」見本市の思想と道筋 14:10~14:40

安達美和子(大分県別府市) NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット 事務局長

地域の教育を「協働」で創り上げようとする時、学習の希望と教育の必要をどのように組み合わせるかが中心課題になる。「協育」見本市は、地域に現存する教育資源と人々の教育的需要と供給を具体的に「マッチング」する場と機会と意味付けを同時に達成しようとする実験的な試みである。子どもの育ちや地域の発展のためには、多様な人々と多角的な発想が不可欠であると考え、県内の団体・機関、グループ・サークル、企業など地域の教育資源となりうる対象に呼び掛け、将来の活動に資するネットワーク化を進めることを目的とした。手法は「見本市」の形態を採り、出店協力者21団体の展示、実演、「協育コーナー」の事例紹介28事業にシンポジウムを組み合わせ提供した。また、県立社会教育総合センターの「おおいた学びフェスタ」との同日・同会場での開催は広報や参加者確保の点で大きな相乗効果を生み出した。「見本市」の最大課題は「何を提供し」、「何と何を繋ぎ」、「今後はどう生かそうとするのか」を明確に提案することだと思っている。

ティータイム 14:40~15:05

3 過疎地における子育て支援システムの崩壊と再組織・再構築の過程 15:05~15:35

柳澤 裕実(山口県周防大島町) 三蒲地域子育てネット 会長

過疎化、少子化、共同体文化の衰退が進行する中で、地域における子育て支援プログラムを担当する引き受け手が途絶え、事実上、運営システムが崩壊した。自己都合優先の生き方が浸透し、地域共同体が内部崩壊すれば、「地域ぐるみの子育て」はもはや成り立たない。対象地域にはまだ30名の小学生が在学し、放課後の支援プログラムの必要性も変わらない。発表者はガールスカウト活動の経験を生かし、地域民生委員会の協力を得て、地域組織活動育成事業として地域の高齢者人材を中核とした子育て支援システムの再組織化とプログラムの再構築に挑戦しているが、その過程は地域社会の空洞化との戦いであり、「学校、家庭、地域の連携」などというスローガンは過疎地においてほとんど機能しない実態との闘いである。

4 朗読と音楽で物語を紡ぐ「わくわくお話し隊」の軌跡  
～「輝く大人であり続けよう」をモットーに～ 15:40~16:10

小川 真里(島根県雲南市) 「わくわくお話し隊」 代表

平成15年、活動は雲南市掛合町の公民館の呼び掛けから始まった。手がけたのは絵本の読み語りボランティア。「群読読み聞かせ」や「朗読劇」の試行錯誤を続け、平成18年に多様な生活背景を持つ10名で「わくわくお話し隊」を結成、モットーを「輝く大人であり続けよう」とした。全員アマチュアであるが、脚本、演出、朗読、ピアノやチェロや太鼓の演奏などを「自分たち流」にアレンジして「伝えたいテーマ」を選定している。これまでの上演経験は幼保園、小中学校、老健施設、各種公私の式典などがあり、プログラムは「つるのおんがえし」からオリジナルの作品まで活動の積み重ねでレパートリーは豊富になった。





# 第2会場 ● 2F 自由研修室

■司 会／續 洋子 NPO法人 なはまちづくりネット

森田 明敬 福岡県教育庁福岡教育事務所 社会教育室 主任社会教育主事

分科会の進め方

13:30~13:35

## 1 アウトリーチ型「放課後の達人」広域プロジェクト ～放課後子ども教室の充実のためのアドバイザー派遣事業～

13:35~14:05

緒方 尚哉(熊本県) 熊本県教育庁教育総務局 社会教育課 社会教育主事

「放課後学習向上アドバイザー」(別名「放課後の達人」)は、放課後子ども教室の活動プログラムを支援し、各自治体の地域指導者に指導方法等の助言を行うため県教委が委嘱した教育の専門家集団である。本事業は県下市町村の要請に応じて「放課後の達人」を派遣し、①モデル的な子どもの体験指導、②効果的な指導プログラムの紹介と助言、③指導方法向上のための研修・助言を行って来た。平成23年度の派遣先は、放課後子ども教室48か所、児童クラブ6か所で、のべ158回の派遣を実施した。その結果は教室やクラブから高い評価を得ている。指導者相互の連絡・プログラム開発の協議は「放課後の達人連絡協議会」で行い、「放課後子どもプラン研修会」の講師としても活躍した。

## 2 地域教育力の向上を目指し、学校と地域を繋ぐPTAの工夫と挑戦

14:10~14:40

山本 美咲(大分県別府市) 別府市立朝日中学校PTA 会長

朝中PTAは「開かれた学校」を目指し、生徒の学習・体験活動を支援し、それらの活動を通して地域の「絆」を強化できることに気付いた。学校は地域からの支援を希望し、行政は「地域教育力」の活性化を目指し、共に「思い」の一致できる場所があることも分かった。「朝中を語る会」は保護者相互の情報交換と親睦を目標に始めたが、地域に拡大して「絆プロジェクト」に成長した。結果的に、学校支援も充実し、環境整備、防犯・夜間パトロール、「学力向上対策費」の設置や学習指導ボランティアとしての大学生の投入、「子どもふるさと体験学inくにさき」への参加や「朝日村フェスタ2011」の展開に繋がっていった。

ティータイム

14:40~15:05

## 3 「無縁社会」を「ご近所福祉」が突破する ～「いつでも、だれでも集える場」を提供するiikotoメイト～

15:05~15:35

藤本 詔子(山口県宇部市) ご近所福祉の「iikotoメイト」 事務局長

「大正琴」のグループ活動20年の仲間の絆と経験を生かし、宇部市の「ご近所福祉」推進事業と協働した「認知症予防プログラム」を基軸とした事業である。徒歩で集まれる範囲を対象とし、代表者の自宅を改装・開放して毎月20回にも及ぶ集会を実施して多様なプログラムを展開している。行政補助金の終結を前提として自らの活動で資金を捻出する工夫も実り、高齢者の活力を引き出すことに成功している。成果は高齢者の活動を通じた仲間づくり、ご近所社交、連帯感の復活など既存の町内会などがほとんど実現できていない「無縁社会」を突破する第1次生活圏レベルの小規模・小単位・顔の見える地域社会の福祉事業である。

## 4 ふるさとの再生を目指す住民自治・活性化機構の組織と戦略 ～出雲街道の今昔に学び、二部谷地域の活力を生み出す～

15:40~16:10

田邊 公教(鳥取県伯耆町) 二部地区活性化推進機構 会長

当地区は総人口1260人、高齢化率39.3%、限界集落の実態を示し始めている。自助・共助・公助を組み合わせた住民活動の先進地に倣って、平成11年に「二部地区活性化推進機構」を設置した。活性化実践に関わる部会は「総務」、「産業振興」、「住み良い環境」、「趣味と生きがい」、「健康スポーツ」、「福祉ボランティア」、「ファンクラブ(ふるさと支援・ふるさと小包発送)」の7つである。

伯耆町からは「企画課」から1名の職員が「二部公民館」に派遣されている。住民の意向をアンケート調査で読み取り、景観植樹、地区運動会や祭りの実施、県や町と連携した「集落の再編」、「特区の導入」、閉校施設の活用、農村加工施設の整備などを進めて来た。また、住民意識の高揚に資するため郷土史や写真集、地元識者による「出雲街道今昔物語」を刊行した。しかし、現実を突破する最大の課題は収入に結びつく地域産業の創出であり、集落営農を導入した地域の再生にかかっていると考えている。



# 第3会場●4F 視聴覚室

■司 会／川上 壮 島根県雲南市教育委員会学校教育課 派遣社会教育主事  
小橋口 誠 鹿児島県南さつま市教育委員会 生涯学習課 課長

分科会の進め方 13:30~13:35

1 木ヶ津千灯籠春まつり 13:35~14:05  
～住民による住民のための地域活性化事業の構想と戦略～

村 節雄(長崎県平戸市) 木ヶ津千灯籠春まつり実行委員会 実行委員長

10年前、地域活性化を目標に、青年団、老人会、婦人会、子ども会のメンバーが実行委員会を結成。地元「普門寺」を中核とした「木ヶ津千灯籠春まつり」を企画した。構想は桜の季節に合わせ、地域全体を会場とした住民総参加の祭りである。既存の石灯籠100基に、地元手づくりの竹灯籠4,000本が夜の町を幻想的に照らし出す。実行委員会は「じのもの市」と称する直売会や昔遊びの体験プログラムなどイベントを企画。上がった収益金は地元の活動団体の活動資金として還元している。10名で始めた実行委員会は現在、50名を擁し、祭りの集客力は5,000人を越え、商会議所や博物館の協力も得られるようになった。祭りを契機に町を美しくするボランティアの町内清掃が行なわれるようになり、住民の参画意識が向上した証であると考えている。

2 「家庭」と「学校」、「親」と「子」、「親」と「親」、「行政」と「支援チーム」を 14:10~14:40  
つなぐファミリーサポーターズ「和」

徳永 清美(福岡県大木町) 大木町教育委員会 家庭教育支援員

平成20年度、県の「家庭教育支援基盤形成事業」の委託を受けて「家庭教育支援チーム」がスタートした。チームは、3小学校それぞれに子ども支援の経験を有する専従1名、短期1名、合計6名で編成し、親子関係、不登校、子育ての孤立などの問題を、標記の関係者を繋ぎながら直接・間接に支援している。方法上の工夫は「機動性」、「アウトリーチ訪問型」、出会いや相談の場を提供する「オープンカフェ」、学校と連携した「登校サポート」、「支援会議」などである。成果は子育て孤立の解消、不登校の食い止め、教員と支援チームの信頼関係や学校と行政が連携して親子の育ちを支援する環境が向上していることである。

ティータイム 14:40~15:05

3 親の学びを核とした乳幼児から自立までの 15:05~15:35  
循環型子育て支援プログラムの意義と方法

赤迫 康代(岡山県備前市) NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん 代表理事

循環型支援とは、本事業で「学んだ親」が、子どもが成長する時間軸の中で、「地域で活躍する人材」となり、やがては「子育てを支援する側」に育って行くシステムを想定している。プログラムは「岡山いきいき子育て応援事業」や「地域子育て支援拠点事業」を有機的につなぐと同時に本事業のコーディネーターを始め関係者が「岡山水育ネットワーク研究会」で学習を継続した。「指導」より「自らの学び」に焦点をあて、参加者を繋ぐコーディネート機能を重視した。近年特に、父親の参加を重視した結果、父親自身が主体的に企画に参画するようになっている。これからの課題は人々の参加を待つに留まらず、支援を届ける「アウトリーチ型」の方法を強化したいと考えている。

4 加治木(笑)劇場「華の会」 15:40~16:10  
～スクリーン(映像)紙芝居に夢を託して～

馬場ひとみ(鹿児島県始良市) 華の会 会員

「華の会」は、児童文学者椋鳩十先生の文学発祥の地、始良市加治木町にある椋鳩十文学記念館で毎年開催されるマヤフェスタ(子どもの祭典)にボランティア参加。時には、地元加治木高校生とのコラボレーションという形で共演している。

「加治木(笑)劇場」は、地元加治木の文化財をテーマにした子ども向けのスクリーン(映像)紙芝居である。先人の残した文化財を過去の遺産として紹介するのではなく、時空を超え、自分たちと同じレベルでこの世に存在しているものとして登場する。現代に生きる子どもたちが、有形・無形の文化財を身近なものとして認識し、次世代へと受け継いでいってほしい、そんな願いをこめ活動を続けている。



# 第4会場 ● 4F 大研修室

司 会 / 植村 健治 大分県教育庁社会教育課 生涯学習推進班 指導主事兼主幹  
林田 匡 熊本県熊本市立本荘小学校 教諭

分科会の進め方 13:30~13:35

1 嘉川子育て支援連絡組織“みらい”が目指す「子育てにやさしいまちづくり」 13:35~14:05

山村 正子(山口県山口市) 嘉川子育て支援連絡組織“みらい” 代表

“みらい”の構成は主として、民生委員児童委員、母子保健推進員、子育てサークル嘉川幼児学級、嘉川っ子サポーターズ等である。“みらい”が山口市に陳情した子ども館「しゅっぽっぽ」は市の「地域型つどいの広場」助成事業の第1号として平成17年に開館した。嘉川地区の子育て支援は乳児から高齢者まで世代間の交流を深め、子育てにやさしいまちづくりを進めることである。今日、手がけている事業は嘉川子ども館「しゅっぽっぽ」の管理運営、中学2年生対象「命の学習・あかちゃんふれあい体験」、子育て支援の公開講座、情報誌の発行、多世代交流の輪づくり、中・高生・若者ボランティアサークル「きずな」支援など多岐に渡っている。事業内容に応じて、行政、学校・保育園、地区内の諸団体、高齢者施設などと「協働」することに力点を置いている。定例の“みらい”運営委員会、サポーターズ会議、行事毎の実行委員会を通して「協働」の情報と目的の共有、連絡・確認を行なっている。

2 「三隅学」の創造と「地域力」の醸成 ~「三隅」の歴史を学び現代につなぐ~ 14:10~14:40

野尻かおり(島根県浜田市) 浜田市立三隅公民館 主事

三隅の歴史を語り継ごうという「三隅氏復活プロジェクト」は平成22年、島根県「実証!「地域力」醸成プログラム」に採択された。三隅公民館では地域の共通歴史遺産を通して、地域の連帯を育むべく「三隅学」の創造に取り組んだ。地域の歴史を学ぶことは地域の一体感を醸成するに留まらず、歴史を生かした教育活動、地域活動、イベントの創造というように「地区」を越えて連鎖的に発展展開している。具体的には、三隅氏の居城「高城」の整備、「高城」と「出城」を結ぶのろしりレーの開催、「高城」周辺の景観整備と現地学習会の実施、中学校の歴史副読本「三隅兼連と南北朝」の作成、「三隅歴史セミナー」の開催などを生みだしてきた。実施形態も進化し、三隅公民館から出発した事業発想は、「実証!「地域力」醸成プログラム」事業、学校地域支援本部事業、町内6公民館の連携した取り組みなどと融合している。

ティータイム 14:40~15:05

3 学校と地域をつなぐ企業発の総合的食育学習 ~「大豆100粒運動 大豆できずく食育の町佐賀」の継承と展開~ 15:05~15:35

池田 龍二(佐賀県佐賀市) ショッピングシティー アルタ開成店 企画室 販売促進企画室長

6年前からアルタは、取引しているメーカー企業の協力を得て単発的な食育プログラムを展開して来た。当初は月1回の頻度で、「カルビー」からは正しいおやつのお食べ方を、「明治乳業」からはカルシウムや朝ご飯の重要性を、「日本ハム」からはソーセージとハムの歴史を学んだ。その過程で「食料自給率」や「食の安全」などの観点の重要性に気付き、辰巳芳子氏が提唱する「大豆100粒運動」に注目して、アルタが実践的に継承した。本事業は、関係企業の協力を得て大豆を通して日本人の食文化を学ぶ総合的学習の企画である。主たる対象は小学生(現在小学校9校)である。1年を通して大豆の生産の過程を学び、加工や栄養の課題を学び、最後は、販売のプロセスを体験的に学ぶ。近隣の農家、「丸美屋」、「大塚製菓」などの協力を得、アルタは特設売り場を設定して販売体験の機会を提供し、売り上げの一部は図書カードで学校に還元している。

4 ゆにばの杜塾 ~大学が育む「中継ぎ世代」を中心とした社会参画と地域活性化~ 15:40~16:10

保坂恵美子(福岡県久留米市) NPO法人ゆにば市民ネットワーク 理事長

当ネットワークは社会人20名、学生35名で構成。学生を地域の「中継ぎ世代」と位置付け、彼らに、御井校区における子どもの学習支援、子育て中の母親、一人暮らしの高齢者、不登校の子どもの居場所づくりと世代間交流などの企画に参画させることを通して、役割意識や地域アイデンティティを育てようとしている。具体的な手法として、校区の「ガリバーマップ」の作成、校区民に呼び掛けた花いっぱい運動の展開、学習支援活動、地域住民を対象とした娯楽・健康・交流などを目的とした各種社会教育的プログラムを実施している。現在、空き施設となっている旧コミセンの活用が可能になったばかりか、居場所機能を果たすことで福祉コミュニティの中核を成す活動に成長している。

1st day  
5.19 Sat.

## 第31回大会 特別報告

■時間 / 16:30 ~ 17:00 ■会場 / 4F 大研修室

テーマ ● 「人は2度死ぬー自分史は『紙の墓標』」

三浦清一郎

2nd day  
5.20 Sun.

## 第31回大会 特別企画

■時間 / 9:00 ~ 11:30 ■会場 / 講堂

インタビュー・ダイアログ

### 1部「通学合宿等『生活体験プログラム』の意義と方法」

現代は利便性・効率性を「売り」とする時代である。また、人権の時代は、子どもの欲求を重視する過保護の時代にならざるを得ない。必然的に現代っ子は実生活の「労働」も「困難」も「他者との共同」も知らない。地域の教育力は衰退し、生活体験を教えるプログラムは辛うじて「通学合宿」等に残されるのみとなった。その意義と方法を問いたい。

#### <登壇者プロフィール>

●朝日 文隆

(福岡県みやま市立江浦小学校 校長)



みやま市立江浦小学校校長。学校主催の通学合宿は平成8年度以来16年目を迎える。現在の参加率は1年生～6年生迄ほぼ100パーセント。子どもが企画する「協働生活体験学習」のプログラムを実施する。「失敗は教育効果を上げる」という視点に徹し、「大人は手を離し、目を離さず」を指導方針にしている。

●鎌田 清一

(福岡県遠賀町教育委員会生涯学習課 元社会教育係長, 現在 高校総体推進係長)



通学合宿は平成8年度から3小学校区単位での持ち回りで開催。現在は町単位で開催している。「生活まるごと体験」を掲げ、通学合宿OB・OGを含む「ボランティアとの協働」を基本理念とし、日程は6泊7日、料理、洗濯、掃除など生活そのものを基本プログラムとしている。

●相戸 晴子

(NPO法人子育て市民活動サポートWill 代表理事)



「NPO法人子育て市民活動サポートwill」代表理事。一貫して子育てグループ活動に関わり、親子の地域参加支援にこだわり続けている。近年はアウトリーチ型の研修会、サロン、交流会などを実践している。2002年日本生活体験学習学会に加入、通学合宿の調査研究活動に参加、子どもの生活体験にはプログラム実践とノンプログラム実践の両輪が必要だと考えている。

## <コーディネーター>

●正平 辰男 (実行委員、純真短期大学特任教授)



福岡県教育庁社会教育課主幹社会教育主事、福岡県立社会教育総合センター副所長などを歴任。2003(平成15)年、東和大学総合教育センター長・特任教授、2008(平成20)年4月より現職。1983(昭和58)年より「通学キャンプ」に取り組み。1989(平成元)年度より旧庄内町立生活体験学校での年間20回の通学合宿の企画・実践に参画。2003(平成15)年より、福岡県社会教育委員、福岡県社会教育委員連絡協議会々長に就任。2008(平成20)年2月、特定非営利活動法人体験教育研究会ドングリを結成、理事長に就任。著書に「子どもの育ちと生活体験の輝き～これまでの通学合宿、これからの通学合宿」あいり出版 平成22年7月。「通学合宿・生活体験の勧め」あいり出版、平成17年11月、その他がある。

## 2部「壊れた地域社会を修復し、『無縁社会』を突破する方法はあるか？」

伝統的共同体が崩壊し、現代人は自由に自分の思いを追求し、自己都合を優先できる時代に生きるようになった。よく言えば「自己実現」、悪く言えば「自己中」の生き方が「無縁社会」を招来し、「個人情報保護法」をつくり出した。「私に干渉しないで！」と一方で言うおいて、「みんなで仲良く、助け合おう。絆の日本」を実現できるか？二人の公民館長に聞きながら会場の分析と意見を聞きたい。

## <登壇者プロフィール>

●秋山 <sup>ちしお</sup>千潮 (佐賀県佐賀市立勸興公民館 館長)



平成15年から佐賀市立勸興(かんこう)公民館館長。公民館は住民に地域情報を提供し、人々をつなぐ「まちの駅」だと構想し、毎月の第2土曜日を「勸興まちの駅」の祭りとして位置づけ、従来発想とは全く異なった視点で、住民主催の出し物や露店や賑わいを演出した。祭りの思想は「招待」ではなく、「参画と交流」を条件に、年間を通して、多様な協力者を戦略的に呼び集め、公民館に足を運んだことのない人達に合った各種出演と交流のステージを開発した。館長と二人の主事は「仲人」であり、「応援団」であり、「依頼人」でもあり、「演出者」でもあった。多様なプログラムは彼らの支援を得て住民自身が生み出して行ったのである。

●森下 <sup>せきや</sup>碩哉 (元福岡県糸島市立南風公民館 館長、現在 糸島市NPO・ボランティアセンター センター長)



平成18年～24年3月まで糸島市南風公民館館長。南風校区運営委員会では9部会を設置し、「交流」と「連帯」を促進する活動を展開している。“子どもは地域のかすがい”をベースに、主に「子どもをキーワードにした事業」、「地域住民が連携協働して実施する事業」に取り組み、施策ごとのプロジェクトチームを設立して取りくんだ。事業の展開にあたっては、多彩な人材の活用、近隣関係に疎遠な若い保護者世代の活動への取り込みを図るため、学校と連携・協働して地域活動を展開し、学校を住民に近づける多様な工夫をした。

## <コーディネーター>

●三浦清一郎 (実行委員、生涯学習通信「風の便り」編集長)



国立社会教育研修所、文部省、福岡教育大学などを経て現在三浦清一郎事務所を設立。生涯学習通信「風の便り」編集長。近著に「しつけの回復、教えることの復権」(2008年)、「変わってしまった女と変わりたくない男」(2009年)、「安楽余生やめますか、それとも人間やめますか」(2010年)、「自分のためのボランティア」(2010年)「未来の必要」(編著 2011年)、「熟年の自分史」(2012年)(いずれも学文社)がある。

# 第30回記念大会開催報告

- 大会期日 2011年5月21日(土)～22日(日)
- 場 所 福岡県立社会教育総合センター

実践研究発表者  
司会者及び  
県別参加者

中国地区			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
山口	3	2	18
広島	4	1	10
島根	2	2	29
鳥取	5	0	15
岡山	1	1	6
計	15	6	78

中国・四国・九州地区以外			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
北海道	0	0	1
東京	0	0	2
埼玉	0	0	1
愛知	0	0	1
奈良	0	0	1
計	0	0	6

九州地区			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
福岡	3	3	168
佐賀	4	1	37
熊本	3	2	8
大分	2	1	19
宮崎	0	0	2
長崎	3	1	39
鹿児島	3	2	13
沖縄	1	1	49
計	19	11	335

四国地区			
県名	実践研究発表者数	司会者数	参加者数
愛媛	1	1	8
計	1	1	8

	発表者数	司会者数	参加者数	実行委・登壇者数	総参加者数
総計	35	18	427	36	516

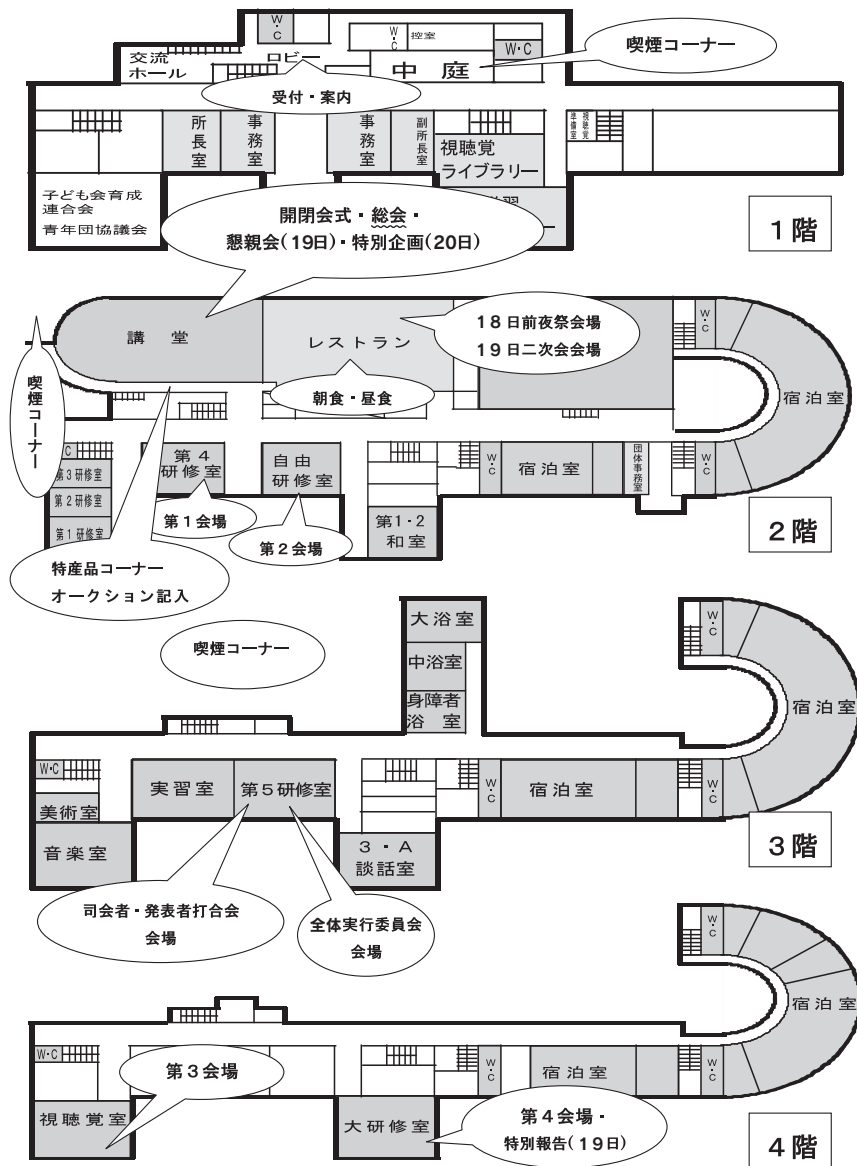
**特産品、稀少品ありがとうございました**  
第30回記念大会も皆様のご協力により、  
たくさんの特産品が集まりました。ありがとうございました。

番号	氏名・団体名(様)	県名	所属名	特産品名
1	筑豊教育事務所	福岡県	筑豊教育事務所 社会教育室	寒北斗 吟醸酒
2	中村 由利江	広島県	地域ボランティアグループ「夢講座」	もみじまんじゅう, もみじまんじゅう 抹茶味
3	杉原 潔	広島県	瀬戸田町ボランティアネットワーク	レモンケーキ"まごころ"
4	大城 喜江子	沖縄県	NPO法人なはまちづくりネット	沖縄県産マンゴー・果実酵母仕込み琉球泡盛・忠孝酒・酒造元泡盛用グラス・沖縄からんぼろうセット
5	古市 勝也	福岡県	九州共立大学	焼酎
6	木村大寺	山口県	環境ネットワーク山口	周南元氣セット
7	①中吉 浩一郎 ②石川 順雄	岡山県	①岡山市教育委員会生涯学習課②広島県福山少年自然の家	赤磐雄町(あかいわおまち)(純米生酒)
8	中吉 浩一郎	岡山県	岡山市教育委員会生涯学習課	きびだんご(海塩)
9	①名嘉 桃子 ②平良 彩妃	沖縄県	沖縄県宜野湾市長田区青年会	サーターアングギー
10	喜友名 盛充	沖縄県	北谷町青年連合会	北谷長老(ちやたんちようろう)
11	恩納村青年団協議会	沖縄県	恩納村(おんなそん)	海ぶどう
12	大泊 未子	沖縄県	北中城村	石垣島ラー油
13	伊川 直樹	沖縄県	西原町青年協議会	天使 金丸(てんし かなまる)
14	宜保 健	沖縄県	読谷村	泡盛 残波
15	森本 精造	福岡県	NPO法人幼老共生まちづくり支援協会	卵
16	岡田 正彦	大分県	大分大学	吟醸酒「なごり雪」
17	田中 崇詞	島根県	安来市役所 企画調整課	鳥取のお酒セット、安来にまつわるお菓子、鬼太郎のお菓子セット
18	三浦 清一郎	福岡県	生涯学習通信「風の便り」編集長	甲州ワイン
19	赤田 博夫	山口県	鑄銭司小学校(すぜんじしょうがっこう)	巖流焼、山口国体の軍手
20	ビッグフィールド大野隊	広島県	ビッグフィールド大野隊	もみじまんじゅう
21	福原 洋子	岡山県	岡山県教育庁生涯学習課	おかやまロール
22	高木 直子	沖縄県	嘉手納町婦人連合会	チャンミーのTシャツ
23	馬場 利浩	長崎県	長崎県教育庁生涯学習課	龍馬が愛した珈琲
24	須田 正彰	北海道	札幌市生涯学習センター	白い恋人
25	鶴木 孝夫	鹿児島県	霧島氏向花(むけ)小学校	いも焼酎 園の露
26	西山 香代子	山口県	山口県立大学附属地域芝生センター	月でひろった卵
27	鶴田 康人之	長崎県	長崎県教育委員会	長崎ちゃんぽん・ヨリヨリセット

番号	氏名・団体名(様)	県名	所属名	特産品名
28	吉岡 康行・山田 浩史	広島県	広島県教育委員会	桐葉菓(とうようか)
29	新山 雄次	愛媛県	大洲青少年交流の家	筍の櫓漬け
30	田中 茂秋	島根県	津和野町教育委員会	宗味
31	山下 泰三	島根県	津和野町教育委員会	冬虫夏草酒 津和野金彩
32	金田 和寿	鳥取県	鳥取県教育委員会西部教育局	純米酒 大山恵みの里
33	大島 まな	福岡県	九州女子大学	FOUR ROSES(パーボン)
34	山本 稔	鳥取県	鳥取県教育委員会家庭・地域教育課	鳥取 砂丘らっきょう・鬼太郎入浴剤
35	江口 峰男	岡山県	岡山教育事務所生涯学習課	日清ひるぜん焼そば
36	三宅 千恵	岡山県	岡山教育事務所生涯学習課	日本酒漬梅酒
37	藤田 千勢	山口県	山口ネットワークエコー	みずび5本セット
38	高橋 聡	岡山県	岡山教育事務所生涯学習課	岡山県倉敷の地酒「燦然」純米酒
39	宮本 和代	福岡県		小倉じんだ2コセット
40	服部 英二	東京都	国立社会教育実践研究センター	パンダセット 3セット、写楽 図録、(石川)手取川
41	上野 敦子	山口県	井関にここクラブ	清酒 山頭火
42	林口 彰・田島 恭子	佐賀県	勉孔子の里	菓子ドンバイバイ、菓子丸ぼうろ、佐賀錦
43	上田和子、川又由賀里、和田瑞穂	愛媛県	愛媛県連合婦人会	道後蔵酒(清酒)秋山兄弟、そのまんまちりめん 3個
44	新崎 順二	沖縄県	沖縄市婦人連合会 沖縄市久保田青年会・中の町青年会	泡盛「琉球」古酒、エイサー太鼓(お守り)×9
45	脇山 善朗	佐賀県	佐賀県立生涯学習センター「アバンセ」	万齢
46	森本 浩子	鳥取県	鳥取県教育委員会家庭・地域教育課	焼酎(目玉おやじキュート瓶)
47	當眞 彰彦	沖縄県	うるま市青年連合会	泡盛(神村酒造暖流)・豆腐よう
48	三瓶 晴美	山口県	たぶせ雑学大学	米焼酎 花もり(田布施米)
49	田原 里恵	熊本県	熊本県社会教育課	白竹しろ 金
50	菊川 律子	福岡県	中村学園大学	石村萬盛堂お菓子
51	伊藤 宏	長崎県	長崎県生涯学習課	くりまんじゅう
52	降旗 友宏	長崎県	長崎県教育庁生涯学習課	長崎ラスク
53	西山 智子	長崎県	諫早市連合婦人会	セーターとふくわらし
54	原 洋	長崎県	長崎県教育庁生涯学習課	金鍼餅(きんせんびん)、麻花兒(マファール・ヨリヨリ)
55	城野、秋山	佐賀県	佐賀市立公民館	村岡屋トウ焼
56	小畑 たるみ	大分県	NPO法人子どもサポート にっこ・にこ	むぎ焼酎 いいちこ 2本
57	寺本 典則	島根県	島根県浜田市浜田教育事務所	どんちっち鎌カレー 3セット、のどぐろのふりかけ 3セット、やさか仙人 2本
58	屋比久 満	沖縄県	西原町地域ぐるみ学力向上対策協議会	沖縄「黒糖ドーナツ棒」
59	新島 悟	沖縄県	西原町地域ぐるみ学力向上協議会	泡盛
60	上野 茂	島根県	旭自治区公民館	椎茸めん
61	比嘉 清美	沖縄県	西原町子ども会育成連絡協議会	泡盛
62	比嘉 直子	沖縄県	西原町子ども会育成連絡協議会	豆菓子・外国産ゼリー
63	宮平 安智	沖縄県	沖縄県 坂田小学校	古酒くら
64	笹倉 絹代	沖縄県	西原町子ども会育成連絡協議会	沖縄黒糖 6袋
65	田端 政勝	沖縄県	西原町PTA連合会	泡盛、くめせんとせんべえ
66	仲松 応彌	沖縄県	中城村婦人連合会	松藤、菊の露
67	脇黒丸 陽一	鹿児島県	鹿児島市教育委員会	蜜酒の杯(焼酎)、焼酎 赤兎馬(せきとば)
68	森 茂八郎	長崎県	茂木トムソーヤーズクラブ	麦・芋焼酎セット(舞こち・魔界への誘い)
69	松島、山崎、川上、福島、和田	島根県		おたまはん&おにぎりみそ
70	佐藤 郁子	愛媛県	愛媛県教育委員会生涯学習課	愛媛のみかんシリーズ
71	永淵 美法	福岡県	九州共立大学	ワイン
72	馬場 尚登	大分県	大分県教育庁社会教育課	麦焼酎 赤ねこ
73	武智 理恵	愛媛県	トーンチャイムグループすいーてん・はーと	じゃこ天 3コ
74	馬場 美智子	佐賀県	佐賀市教育委員会 社会教育課 課長	小城羊羹
75	関 弘紹、鴻上哲也	佐賀県	教育庁社会教育文化財課	とら焼 宗歎(そうかん) 3セット
76	藤原 幸	鳥取県	南部町教育委員会	純米ながたの & 竹するめ
77	緒方 尚哉	熊本県	熊本県教育庁社会教育課	清酒
78	松尾 修	長崎県	長崎県教育庁	純米吟醸 愛山
79	深迫 重位	鹿児島県	福山ぼっけもん会	福山黒酢 2本
80	松本 英俊	長崎県	西海市	ルビーの雫(トマト焼酎)、焼酎 男たちの大和
81	田畑 文成	鹿児島県	与論町教育委員会	黒糖焼酎 有泉
82	福岡県教育庁社会教育課	福岡県	福岡県教育庁社会教育課 社会教育班	椒房庵 博多ラーメン、椒房庵 高菜めんたい、ひらおのしおから
83	肘井 俊広	福岡県	福岡県青少年科学館	久留米大砲ラーメン

なお、紙面の都合上、敬称と職名は省略させて頂きました。万一、誤字や脱字、または、記入漏れがありましたときは、ご容赦下さいますようお願いいたします。

# 会場案内図



## 「ふくおか社会教育ネットワーク」

にて本大会の発表事例は、掲載されます！



その他、福岡県内の社会教育に関するイベント・施設・HPリンクが見られる充実したホームページです。

ホームページアドレス

<http://www.fsg.pref.fukuoka.jp>

最新事例  
「新しい風」を  
クリックして  
ください！

ぜひ一度ご覧ください！

## 福岡県立社会教育総合センター

住所 〒811-2402 福岡県糟屋郡篠栗町大字金出3350-2  
TEL 092-947-3512 FAX 092-947-8029